

今月第6号は京都部京都トップスクラブの牧野 篤文ワイズにご登壇いただきます。



## クラブを発展させるには

京都部京都トップスクラブ

牧野 篤文ワイズ

私は、2006年に京都トップスワイズメンズクラブに入会して、会歴は12年になります。私が入会した当時のメンバー数は21名でした。京都部の中でもメンバー数の少ないクラブでしたが、私が入会する数年前までは、メンバー数15名で京都部の中で最もメンバー数の少ないクラブでした。

そんな状況から、西日本区で言われている「トップスの奇跡」が起きて毎年メンバーが5人から10人増え続け、瞬く間に50名を超えるクラブになり、今日に至っては西日本区に多くの役員を輩出するクラブに発展しました。

その「トップスの奇跡」の当事者の一人である私から言わせると、奇跡では無く、なるべくしてなったと考えています。言い換えれば、西日本区全てのクラブにも起こりうる事だと確信しています。

その始まりは、私が入会して3年目に EMC 委員長を勤めさせて頂いた時です。EMC 委員長として、このトップスクラブのメンバーを増やし、発展させるためには、どうすれば良いだろうか？を自問して、ある一つの結論に至りました。それは、このトップスクラブにとって最も大切なものは何か？を考えた時に、最も大切なものは、「今所属しているメンバー1人1人」である。という事に魂から気が付いた事です。

もちろんワイズメンズクラブは YMCA を中心とした奉仕クラブなので、この質問に対して、最も大切なものは奉仕の精神である。と答える方も多いと思います。また、YMCA に対する忠誠心である。と答える方も多いかもしれません。しかし、その奉仕活動や、YMCA のサポートを行うのは誰でしょうか？それは、「今所属しているメンバー」です。このメンバーの存在が無ければ、ワイズは成り立たないのです。この考え方をベースに、最も大切な今所属しているメンバー1人1人が、このトップスクラブに入会して「心の底から良かった」と感じて頂くには、どうすれば良いか？を考え、「メンバー満足度」に焦点を当て、メンバー全員からアンケートをとるなどして徹底的

にメンバーの意見に耳を傾けました。それは貴重な意見ばかりで、できる限り取り入れて実行しました。もちろんメンバーにより価値観が違ったりしましたが、私が、自分の体験から最も重要視したのは、クラブ内にメンバーの「居場所」を作る事でした。その結果、「トップスクラブに入会して心の底から良かった」と思えるメンバー比率が増え、そのメンバーがどんどんゲストを例会に招待するようになり、数年で30人以上のメンバーが増えたのです。

これは、非常にシンプルな理屈です。なぜならば、今所属しているメンバーが、クラブに対しての満足度が低い状態で、自分の知人や友人をゲストとして、例会に招待するでしょうか？絶対に有り得ないと思います。しかしクラブに対しての満足度が上がり「心の底から良かった」と感じたメンバーは高い確率でゲストを例会に招待するようになります。このメンバーの比率が上がれば自ずとメンバー増強は可能になるのです。

急激にメンバーが増えたトップスクラブで、次の課題は、その新しいメンバーがワイズメンとして成長するにはどうすれば良いか？ただメンバーが増えるだけでは真の発展は無いと考え、トップスクラブで取り組んだのは、「メンバーの段階的成長」です。

会歴数十年の重鎮メンバーと会歴1年未満のメンバーとでは、当然クラブに対しての意識が大きく違います。この新しいメンバーから重鎮メンバーまでの大きなギャップに対して細かく階段を作り、その一段一段に異なる優先事項を設定して、次の一段にスムーズに上がれるように取り組みました。その階段は新入メンバーから始まり会歴2年未満メンバー、委員長経験メンバー、三役経験メンバー、会長経験メンバー、中堅メンバー、重鎮メンバーに分けました。その結果として毎年会長経験メンバーが中堅メンバーに成長して、トップスクラブでは、この中堅メンバーの層が年々厚くなり、中堅メンバーが、「メンバー満足度向上」を考えるという好循環が生まれました。そしてこの中堅メンバーがクラブ内だけでは無く京都部や西日本区の役員として活躍するようになったのです。

私も、6年前に会長を経験して、4年前に京都部の EMC 事業主査を務めさせて頂き、次期は西日本区の EMC 事業主任として、今までの経験を生かして西日本区全体の発展に少しでも貢献できるように取り組みたいと考えています。

(2019-20年度西日本区次期 EMC 事業主任)

次月1月号は九州部熊本にしクラブの亀浦 正行ワイズにバトンタッチいたします。